

# 能代山本だより

第35号（観光振興課発行第11号）

こんにちは。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

今回は首都圏の大雨を心配して発行したのですが、その後、能代を大雨が直撃し、地域によっては床上浸水等で避難生活となったところがあります。収穫間近の米など農作物にも大きな影響がありました。特に二ツ井地域の被害が大きく、今もまだ復旧作業が続いています。

## 10・11月のイベント情報

きみまちの里フェスティバル (マラソン)	10月21日	スポーツ振興係	0185-73-5258
(物産販売)	10月20・21日	産業振興課	0185-73-4500
きみまち阪紅葉まつり	10月10日 ～11月3日	二ツ井町観光協会	0185-73-5075
ふるさと能代じまん市 ～能代産業フェア2007～	10月27・28日	のしろ産業フェア2007実行委員会 能代市商工港湾課	0185-89-2187
郷土芸能発表会	11月3日	生涯学習課	0185-73-5285

9月24日の「能代なべっこ遠足in風の松原」は、250人の参加で、暑すぎるほどの秋晴れのもと盛大に開催されました。参加者は美味しく楽しんでいました。

## お知らせ

### 能代観光協会ブログ「能代でらっと情報」

能代山本地域の最新の話題を毎日、ブログで発信しています。

お近くのパソコンでぜひご覧ください。

能代でらっと情報URL [http://blog.livedoor.jp/noshiro\\_kanko/](http://blog.livedoor.jp/noshiro_kanko/)

能代PR大使のみなさんの近況や身近な話題、気が付いたことなど遠慮なくお知らせください。

ファクシミリ	0185-89-1776
電話番号	0185-89-2179
Eメール	kankou@city.noshiro.akita.jp

**災害** 9/17～18の大雨**浸水は床上275棟、床下241棟 / 建物被害**

17日から18日にかけての河川増水で発生した能代市の建物の被害は、20日午後5時現在で、二ツ井町の住家の半壊2棟をはじめ、床上浸水が275棟、床下浸水が241棟に上りました。二ツ井地域は、住家の床上浸水が118棟、床下浸水が109棟。仁鮎地区で77棟が床上浸水するなど被害が多かったです。麻生地区では半壊が2棟。一部損壊は同地区と富根地区で各1棟。非住家は全壊1棟、半壊1棟、床上118棟、床下4棟。能代地域は、住家の床上浸水36棟、床下浸水33棟。非住家は床上3棟、床下95棟となっています。天内、鶴形、鮎淵地区などで被害が目立ちました。

**被害拡大、農業2億 / 能代市**

能代市対策本部が21日午後4時現在でまとめた大雨災害の被害状況によると、農作物など農業関連の被害額が2億円近くに上っています。

**水田の冠浸水830ヘクタール / 農業被害**

大雨による農業被害は、能代山本で水田829・5ヘクタールが冠浸水したほか、比内地鶏1万300羽が水死しました。県災害対策本部と県山本地域振興局、各市町の調べによると、冠浸水した水田の内訳は能代市804ヘクタール、三種町22・5ヘクタール藤里町2・5ヘクタール、八峰町0・5ヘクタール。これによる被害額は、能代市で1億1773万2901円と見積もっています。全県の冠浸水は9193ヘクタール。このほか、能代市二ツ井地区で飼育されていた比内地鶏1万300羽が水死し、被害総額は2060万円です。

**米代川増水、2300人が避難**

17日から18日にかけての大雨は各地の河川の増水をもたらし、米代川は最高水位が昭和47年水害をしのぐ8メートル以上に達し、二ツ井地域を中心に計約2300人が避難を余儀なくされ、各避難所では住民が不安な夜を過ごしました。けが人など人的被害はありませんでしたが、住家の床上浸水が100棟に上るなど、各地で建物の被害も多数発生、刈り取りを間近に控えた水田も冠水し地域につめ跡を残しました。

**水位、戦後最高を記録 / 米代川**

能代市内3地点の観測所によると、米代川の最高水位は18日、二ツ井（銀杏橋）が8.07メートル、榊（悪土川合流地点）が6.71メートルと「47水害」（昭和47年7月9日）の時を上回る戦後最高を記録。向能代（能代大橋）も3.67メートルで、はんらん危険水位を突破しました。

**1600人が不安な一夜 / 二ツ井地区**

「昭和47年水害を思い出す」「自宅に帰りたい」。17日から18日にかけての大雨で、能代市内では米代川周辺の1651世帯に避難指示が出され、二ツ井地区の避難所10カ所では、住民らが眠れぬ一夜を過ごし、能代地区の4カ所でも不安が広がりました。大雨の影響で、能代山本地域内で最も被害が懸念された二ツ井地区では、体育館や公民館など10カ所が避難所として指定され、1566人（18日午前4時）が駆け込み、同地区では日が暮れ雨足が強まり出した17日夜から18日未明にかけて、危険を告げるサイレンと町内放送が絶えず響き渡り、住民らは不安な思いを募らせました。

## **47水害後の堤防整備が“威力” / 米代川**

米代川の9.18増水は、堤防決壊の目安となる「はんらん危険水位」を超え、二ツ井地区では47年7月水害を越える戦後最大の水位を記録しました。水害の悪夢を再現するかのようには堤防に容赦なく襲いかかる濁流。しかし、水害後に整備された右岸の特殊堤は耐えに耐え、同じ被災地の同市中川原の左岸堤防も守りきりました。50年に一度の大洪水を想定して河川整備計画が策定される中で、「47・7水害」の教訓が35年目にして生かされた格好となりました。

## **出来秋直撃に落胆 / 農業被害**

県山本地域振興局によると、この水害で水田約250ヘクタールが冠・浸水し、また、能代市二ツ井町では比内地鶏が8千羽以上死ぬ被害が出ました。振興局農林部農林企画課などによると、能代市荷八田、朴瀬、河戸川、産物、苧橋、向能代の各地区で水田合わせて220ヘクタールが冠水。また、三種町下岩川で12.5ヘクタール、藤里、八峰の両町でも出水による冠水被害が発生しました。

## **あわや...決壊の前兆が / 米代川堤防**

能代市扇田の米代川左岸堤防で18日、堤防小段ののり面から漏水、約38メートル間にわたって崩落するなど「決壊の前兆」ともいえる現象が生じました。米代川は当時、戦後最高水位まで増水し、堤防は極めて危険な状態にあり、国土交通省能代河川国道事務所は土のうを積むなど応急措置を施して崩落の拡大を食い止めました。このほか、同市内の堤防2カ所で漏水発生も確認され、堤防はまさに“悲鳴”を上げていた状態でした。

## **繰出で復旧作業を急ぐ / 大雨水害**

17日から18日にかけて大雨による浸水被害に見舞われた能代山本の米代川流域では19日、地域住民が水の引いた家の中の泥を洗い流し、ぬれた家財道具を運び出すなど復旧作業に追われました。「想定外の水の量だった」、「47年水害に匹敵する被害」という声が聞かれました。住家が浸水し、十分に休むこともできないまま作業に当たる住民の表情には疲労がにじみ、被害の深刻さを物語っていました。

## **国体**

### **夢と感動の舞台幕開け / 秋田わか杉国体**

「君のハートよ位置につけ」。第62回国民体育大会（秋田わか杉国体）本大会は29日、秋田市雄和の県立中央公園県営陸上競技場で総合開会式を行いました。天皇、皇后両陛下ご出席の下、47都道府県の選手団が堂々の行進。本県としては46年ぶりとなる大会の幕を開けました。10月9日まで11日間の期間中、39競技（公開競技含む）が能代山本を含む県内19市町村・83会場で行われ、全国の精鋭が熱戦を展開します。

### **天皇陛下 選手を激励**

天皇、皇后両陛下は、午後0時50分ごろ宿泊先のホテルから開会式会場に到着されました。開会式では入場する選手団に手を振って激励。お言葉を述べられた天皇陛下は、17、18日の大雨のため県内で大きな被害が出たことに触れ、「災害を受けた人々を皆が協力して支え、被災地が順調に復興することを念じている」とするとともに、「多くの県民に支えられて開催されるこの大会が選手にとり、また県民にとって心に残る実り多いものとなることを願う」と話されました。

## バスケット日本一懸け熱戦開始 わか杉国体

秋田わか杉国体バスケットボール4種目が30日、能代市と三種町の6会場で華々しく開幕しました。県内外のバスケット愛好者をはじめ、選手の保護者や親類、小中高生、市民団体など大勢の人が会場に足を運び、全国の強豪が繰り広げる真剣勝負に見入り、スティックパルーンなどの鳴り物を使って盛んに応援。成年男女、少年女子の本県選抜チームは地元熱い声援に後押しされ、そろって初戦を飾りました。6会場の観戦者は1万9500人に上りました。

## 両陛下、三種でバスケットを観戦

天皇、皇后両陛下は30日、三種町琴丘総合体育館でバスケットボール成年男子の1回戦を観戦した後、同町役場琴丘総合支所で昼食を取られました。能代山本への訪問は皇太子時代の昭和45年以来、37年ぶり。両陛下は、熱烈な歓迎に笑顔で応え、気さくなお人柄を見せていました。

## イベント

### 風の松原で「食欲の秋」にぎやかに

能代観光協会と市が主催で「能代なべっこ遠足in風の松原」が24日、風の松原憩いの広場で開かれ、約250人が秋晴れの空の下、プロの食彩人が用意した「なべっこ」に舌鼓を打ちました。きりたんぼ・だまご鍋に必要な食材の準備や下ごしらえから、鍋やコンロ、シートに至るまで主催者側で準備し、手ぶらで参加できる気軽さも“売り”です。松原内においしいような香りを漂わせながら、にぎやかに食欲の秋を満喫しました。

### 山田さんが始球式で「第一投」

能代市出身の元プロ野球選手・山田久志さんにちなんで付けられた「山田久志サブマリンスタージアム」の命名式が29日、同スタジアム正面入口前で行われました。市内の小学生や地域住民らを含め約600人が見守る中、山田氏は「野球人としてこれ以上嬉しいことはない」と喜びを語りました。また、学童野球新人交流戦で始球式のマウンドに立ち、能代高時代にバッテリーを組んだ大沢勉さん(59)のミットへ記念すべき同スタジアムでの「第一投」を投げ込みました。

## 農業・漁業・林業

### 秋陽に白い魚体輝く 三種町鵜川

[ 9/16北羽新報 ]

三種町鵜川の佃煮店で八郎湖産のワカサギの天日干し作業が始まり、ずらりと並んだダシの上で陽光を浴びて輝くさまが秋の訪れを感じさせています。昨年はアオコの大量発生に泣いた八郎湖ですが、今年も夏場の高温の影響で水質は決して良くないということです。それでもワカサギは今のところ成育は良く、漁獲量もますますで、丁寧に日干し作業を続けています。

### アユの「やな漁」盛ん / 藤里町

初秋を迎え、藤里町の河川ではアユのやな漁が盛んに行われています。今シーズンは「例年より漁は遅れているが、魚体はますますの大きさ」で、川の幸を満喫しています。粕毛川の漁協の組合員が8人グループで漁を行っており、9月6日の朝に初漁がありました。捕獲したアユは個人に配分し、料亭などに売ったり、冷凍保存して自家消費します。アユずしを作ったり、内蔵を塩漬けする「うるか」の人気も高いとのこと。同グループでは10月下旬まで続ける予定です。

### **水稻新品種「秋田89号」、品種登録へ**

県農林水産技術センター農業試験場は、水稻の新品種「秋田89号」の品種登録に向け、準備を進めています。「安定多収で食味も良好」とするこの品種は早ければ4年後の23年産からデビュー。現在、品種名を募集しています。「秋田89号」は、母親が岩手県の「岩南8号」、父親が「秋田58号」、「あきたこまち」「東北143号」(ひとめぼれ)の孫に当たり、7年に交配され、12年間にわたり開発が続けられてきました。

### **19年産米、県北は「やや不良に」**

東北農政局秋田農政事務所は28日、19年産水稻の作柄概況を発表しました。15日現在の県北地帯の作況指数は98。調査期日直後の17日に発生した集中豪雨による被害について現段階で把握できた分を見込んだ結果、「やや不良」となりました。10アール当たり収量は平年を10キロ下回る545キロを予想。本県全体での指数は全国最高の102、「やや良」となっています。

### **林野庁長官賞に秋三銘木と瀬川銘木**

第39回県銘木展示大会(秋銘展)が27日、能代市河戸川の県銘木センターで始まり、一般公開と展示品の審査会が行われました。最高賞の林野庁長官賞には秋三銘木の「天然秋田杉柁目天井板」と、瀬川銘木の「天然杉空目天井板」の2点が選ばれました。28日は午前9時から売り立てが始まるほか、久々に天然秋田杉の原木が大量に集まった原木市の競りは、正午から行われました。

### **大量出品の原木完売 秋銘展**

第39回県銘木展示会(秋銘展)は28日、能代市河戸川の同センターで製品などの売り立てが行われました。能代でしか手に入らない腰板は、良品の引き合いも強かったが、全体では製品やメーカー、価格で抜き買いがみられ、“まだら模様”の商いとなった半面、原木は、原材料の品薄傾向を反映して天然秋田杉など国有林委託材は完売しました。

### **売上高は1億3千万 秋銘展が閉幕**

能代市河戸川の県銘木センターで開かれた第39回県銘木展示大会(秋銘展)は29日、格天などの売り立てが行われました。2日間の売上は目標を下回る約1億3千万円。閉幕後の理事会で「逆風にめげず踏ん張った」と総括しました。

## **行政関係**

### **庁舎は現在地を基本に / 斉藤市長**

能代市の9月定例議会の12日の一般質問で、市庁舎の建設計画を問われた斉藤市長は、「現時点では行政ゾーンから移す考えはない」と述べ、庁舎の位置は今後の検討課題としながらも、旧淳二小跡地を含む現在地を基本に検討する考えに変わりはないとしました。

### **庁舎建設は木造2階建てで 八峰町**

八峰町の9月定例議会の行政報告で、加藤町長は同町峰浜目名瀧に建設予定の役場庁舎について、「木造2階建て、敷地面積約2千平方メートルの内容で、設計業者選定プロポーザルの作業に入っている。10月上旬に設計業者を決定し、年内にも新庁舎の設計概要を示したい」としました。

## 20年度から赤字転落 / 能代市

能代市の9月定例議会の総務企画委員会で14日、29年度までの財政推計（一般財源ベース）が示され、20年度から赤字に転落する推計で、市当局は「職員の協力を仰ぐことも念頭に置かなければ、20年度予算は編成できない」とし、市職員給料も含め踏み込んだ対策が避けられないとの考えを示しました。

## 能代が実施地域に / 新パッケージ事業

改正地域雇用開発促進法に基づく地域再生に取り組む市町村などを支援する厚労省の今年度地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）の事業実施地域に能代地域（能代市）が決定しました。9月から22年3月までの期間、観光振興を軸とした産業振興を推進し、200人の雇用創出を目指します。

## その他

### 東北シーアイシーが能代工業団地に事業所

無塵衣・無菌衣の精密洗浄加工などを手掛ける東北シーアイシー研究所（本社・山形市、資本金2千万円、大沼俊夫代表取締役社長）は、能代市扇田の能代工業団地に秋田事業所（渡辺悦亘所長）を開設、操業を開始しました。市独自の誘致企業第1号。取引先のニプロ（大館市）や杏林製薬などで使用される無塵衣・無菌衣、ブーツ、マスクなど身に付ける物の洗浄を行っています。クリーンルーム内には洗濯機、乾燥機各2台、ブーツの乾燥用オープンなどが据え付けられ、洗浄は不純物を含まない水を使用、乾燥後はごみなどが入らないようにパッキングして出荷します。

### 地価下落に歯止めなし / 県調査

県は19日、今年度地価調査結果を発表しました。能代山本の地価は下落に歯止めが掛からず、調査した基準地に上昇した地点はありませんでした。林地を除いた能代市の1平方メートル当たりの平均価格は2万3900円で、下落率は5・8%。前年度より0・7ポイント下落幅が縮小したものの、全県25市町村では羽後町の5・9%に次ぐ2番目の落ち込みとなっています。

### ブロンズ像を母校に寄贈 / 能代市出身の小林さん

能代市扇田出身の会社役員、小林肇さん（77）＝東京都在住＝が、母校の同市第五小にブロンズ像「夢の翼」を寄贈することになりました。秋田美術工芸短期大の皆川嘉博准教授が製作し、11月の序幕式に向けて作業が進行中です。製作過程では、デッサンや命名に児童がかかわり、児童のイメージを取り入れた像となっています。

## 能代FC

### 「コドモノコドモ」 「夏編」撮影終了

能代市内で行われている映画「コドモノコドモ」（萩生田宏治監督）の撮影は19日、市内4カ所でカメラを回して約1カ月にわたった「夏編」の撮影を終了しました。18日夜には同市柳町の八幡神社でエキストラ約250人を動員して祭典風景の撮影も行われました。来年1月にはスタッフ、キャストが再度来能し、「冬編」の撮影に入る予定です。